

# 令和元年教育委員会第5回定例会会議録

開会日時 令和元年5月14日 午前 10時00分

閉会日時 同 上 午前 10時31分

場 所 教育委員会室

出席委員 教育長 塩澤雄一  
同職務代理者 塚本 亨  
委 員 望月京子  
委 員 日高芳一  
委 員 齋藤初夫  
委 員 大里豊子

## 議場出席委員

・教育次長	安井喜一郎	・教育総務課長	鈴木 雄祐
・学校施設課長	秋元 高志	・学校施設整備担当課長	杉谷 洋一
・学務課長	神長 康夫	・指導室長	加藤 憲司
・学校教育支援担当課長	山岸 健司	・統括指導主事	木村 文彦
・統括指導主事	大川 千章	・地域教育課長	山崎 淳
・放課後支援課長	生井沢良範	・生涯学習課長	加納 清幸
・生涯スポーツ課長	南部 剛	・中央図書館長	尾形 保男

## 書 記

・教育企画係長 富澤 章文

開会宣言 教育長 塩澤雄一 午前 10時00分 開会を宣する。

署名委員 教育長 塩澤雄一 委員 塚本 亨 委員 望月京子  
以上の委員3名を指定する。

議事日程 別紙のとおり

開会時刻 10時00分

○**教育長** おはようございます。出席委員が定足数に達しておりますので、ただいまより令和元年教育委員会第5回定例会を開会いたします。

本日の議事録署名人は私に加え、塚本委員と望月委員にお願いしたいと思います。よろしくお祈りいたします。

それでは、本日は、議案は特にありません。報告事項が4件となっております。

それでは、報告事項等1「平成30年度チャレンジ検定の実施結果について」説明をお願いします。

指導室長。

○**指導室長** それでは私から「平成30年度チャレンジ検定の実施結果について」ご報告をさせていただきます。

「かつしかっ子チャレンジ」に示した学習内容が着実に身につけていることを確認するために行っているものでございます。なお合格の基準につきましては、国語、算数・数学、英語につきましては正答率を80%以上として、また体力については目標値の達成としております。

まず1、結果でございます。資料1をご覧くださいと思います。A4横の3ページになります。まず1番、小学校（1）国語・算数でございます。小学校につきましては、全ての学年教科において第1回検定の合格率が76%以上。年度末には98%以上が合格し、チャレンジ検定の取組みの浸透が見られます。下段にいりますが、（2）体力でございます。体力につきましては、小学校では全ての学年において持久走の合格率が96%以上となっております。持久力を高めることができていると考えております。

また全種目合格した児童の合格率についても全学年で昨年度よりも上がっております。各校での取組みの成果があらわれております。一方、合格率の低い投げ運動につきましては、教員の実技研修を充実させるとともに、小学校における体育の授業での取組み及び「一校一取組」運動など、各校の実態に応じた取組みを一層推進していく必要があると考えております。

4ページをご覧ください。中学校の結果についてのご報告でございます。中学校につきましては全ての学年、教科におきまして第1回検定の合格率が72%以上となり、年度末には94%以上が合格をしております。しかし、英語につきましては、特に2年生の合格率が低い状況でございます。今後、一層の取組みが必要であると考えております。

体力でございます。中学校におきましては全ての学年において、合格率が98%以上となっております。チャレンジ検定の取組みの充実が見られる状況だと思っております。なお、中学校の体力につきましては、表の下に注釈をつけておりますが、自分自身の昨年度の体力調査の項目の合計点を上回るということを基準にしております。

1ページ目にお戻りください。資料2-1、2-2につきましては、各校ごとの結果となっ

ておりますので、後ほどご参照いただければと思っております。2番、結果についての分析につきましては、先ほどあわせてお話をさせていただいたところがございます。

2ページをご覧ください。全員合格校でございます。小学校につきましては、国語・算数、44校。中学校の国語・数学・英語につきましては9校。小学校の体力につきましては0校。中学校の体力につきましては13校となっております。

4番、令和元年度チャレンジ検定のスケジュールでございます。中学校の国語につきましては、4月15日からもう始まっているところがございます。体力につきましても通年ということですので取組みを開始しております。そのほかの教科等につきましては、例年通りのスケジュールで進めているところがございます。

ご報告は以上でございます。よろしくお願いたします。

**○教育長** それでは、ただいまの説明について、何かご質問等ございましたらお願いします。

塚本委員。

**○塚本委員** ご説明ありがとうございます。結果あるいは分析に関しましては、私もそのとおり読み取らせていただいたのですが、若干気になりましたという表現が妥当かどうか分からないのですけれども、体力の面でいきますと投げる運動に例年どおり課題が出ていますので、これは常に齋藤委員もおっしゃっていますけれども、区内での遊技施設の中で、物が投げられる場所の確保ということが必要であろうかなというのが背景にもあると思います。学校に行くと、校庭でその時間を費やすのではなくて、あるいは体育の時間だけで費やすのではなくて、平素から投げるのだということは大切なのではないかというのが1点。これは感想です。齋藤委員がまた何かご希望があらうかと思えます。

それから、前に全国学力・学習状況の速報値をいただいた記憶があるのですが、これでいきますと平成30年度のチャレンジ検定の正答率の問題で本日、数値を示していただいたのですが、以前の私の記憶でいきますと、過去の3カ年でしょいか、28、29、30年と比較されたときに上昇傾向にあるのか、横ばいなのか、あるいは前の全面実施の部分を受けて課題が克服された数値となっているのか、その辺の指導室長の見解をちょっとお聞かせください。

**○教育長** 指導室長。

**○指導室長** 小学校につきましては、横ばいというか、今回も98%ということですがけれども、昨年度につきましては99%あたり、横ばいと考えてよろしいかなと思っております。中学校につきましては、今年度94%以上、全ての学年教科というお話をさせていただきましたけれども、若干、中学校のほうにつきましては、昨年度は93%ということなので、これについても横ばいかなと考えております。

以上でございます。

**○塚本委員** ありがとうございます。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

齋藤委員。

○齋藤委員 先ほどありましたように、投げるのが非常に課題になっているのですけれども、公園とか別の部署に対して取り組むようにと要望はしているのですが、なかなか動かないし、返ってくる言葉が学校の中でやるようにしたらいいのではないかと言われたこともあります。私は、そういうやりとりをしてもなかなか始まらないので、数字的に厳しいところとか、校庭が広いところなどで、モデル的に、いつも鳥かごとっているのですけれども、ボールが絶対に出ていかない、網の屋根もついている鳥小屋みたいなものでちょっと長目のものをつくれれば、ボールを投げたり、キャッチボールもできるので、そういうのを試みとしてつくってやってみたらどうかと。その結果、数字の悪い学校の中で、それが1年、2年経過したときにデータとしてどうなのかということも検証してみていただいて、それを根拠に、ふだんスポーツになじまない人が、公園で日常の土日などにボール投げができて、体力が上がっていくというのを区全体で取り組めるようにして、将来的にはいくべきだと思うのですけれども、取っかかりとして。向こうに言えば学校でやればとか、こっちはなかなかできないとか、行ったり来たりになっているので、いつになっても空回りをしているのが現状なのです。ですから、どこかをこじあけるためにも、校庭の広くない、小さいところはできないと思いますので、そういうところを考えたり、近所から苦情が来ているところとかそういうところで、選択をしていただいて、可能なところにチャレンジしてもらおうというのはどうかなとずっと考えているのです。その辺について考えてみようという気があるかどうかですね、どうでしょうか。

○教育長 教育総務課長。

○教育総務課長 委員、ご指摘のとおり、公園所管のところには働きかけをしているところですが、なかなか進まないという現状がございます。我々の遊び場開放事業ということで土日・祝日に小学校を開放しているところに関しては、基本的にはボール遊びをしていいですよという形はとっているのですけれども、その中でも、近隣等の関係、それから年齢差があるところで、なかなか、硬いボールだとかというような遊びは難しいような状況もあるところがございます。

今、ご提案いただきましたケージを学校に設置ということもございますけれども、こちらはハード面の課題等もあると思いますので、そちらの施設の所管のほうと、学校施設課とまたお話ししながら、また指導室とも話をしながら検討をさせていただければと思います。よろしくお願いたします。

○教育長 そのほかいかがですか。

日高委員。

○日高委員 今、ご指摘ありましたように、投げる運動については全ての学年齢と言ったほう

がよろしいですね。数値が低くなっている。これ経験不足かなと思いますので、「一校一取組」運動として各学校がやる、そういうものに期待していきたいなと思います。

それからもう一つ同様に、高学年になればなるほど鉄棒がだめだと。これも一つ指摘できることかなと思うのです。これは鉄棒に触れる経験が少なくなるということと、もう一つは肥満傾向にあるということが影響するかなと思っていますけれども、何か分析されていることはありますか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 今、お話のとおり、鉄棒につきましても非常に、学年が上がればというところはございます。高学年につきましては5年生は補助逆上がり、そして6年生は逆上がり。補助逆上がりというのが、台みたいなものを置いてということなのですからけれども、逆上がりというところがなかなか難しい。しかし、検定の上では、逆上がりはできるようになってほしいという願いがございます。恐らく、学校や学年ごとの差も当然ありますけれども、例えば鉄棒でありますと3年生では足抜き回りであったりとか、4年生がだるま振り、前回り降りだとかというところで、割と難易度的に階段状になっているというよりは、逆上がりというのは、なかなか難易度が難しいところもあるのかなと思っています。ただ、学校差もありますし、そういった学校の中で頑張っている取組みを、今、お話のあったような「一校一取組」で頑張っているところを教育委員会としても紹介をしながら、葛飾区全体の取組みを高めていきたいなどは考えております。

○教育長 日高委員。

○日高委員 持久走が、一時期低かったのが、95%を超えているということで、これ非常にすばらしいなと思うのです。だから「一校一取組」の運動というのは大きな影響力があるなと感じますので、ぜひそういうあたりを現場のほうにも情報提供いただければありがたいなと思います。

以上です。

○教育長 そのほかいかがですか。よろしいですか。

それでは報告事項等1については終わります。

続きまして報告事項等2「令和元年度教育研究指定校等の決定について」お願いします。

指導室長。

○指導室長 「令和元年度教育研究指定校等の決定について」ご報告をさせていただきます。

まず1、教育研究指定校・園についてご報告をします。(1)でございます。継続(2年目)、指定校・園につきましては、2年の指定をしております。その2年目の学校が小学校9校、中学校4校、あと幼稚園が1園という形になっております。2年目につきましては、こちら資料のほうの右にございます研究発表ということで、その研究の成果を葛飾区内に広く還元をして

いただくという趣旨で、研究発表会を予定してございます。

裏面に参ります。(2)、新規の1年目でございます。小学校6校、中学校3校の9校が1年目として決定いたしました。学校名、教科等内容につきましては、見ていただいたとおりでございます。繰り返しになりますけれども、この9校につきましては来年度、発表いただくということで、今、研究をスタートしたところであるという形でございます。

2番、グループ研究でございます。こちらにつきましては2グループが応募をしているところでございます。

3番、東京都人権尊重教育推進校でございますけれども、こちらは東京都の指定になっております。金町小学校が2年の研究指定の2年目という形で、11月29日金曜日に研究発表を行う予定でございます。

4番、オリンピック・パラリンピック教育アワード校として東京都より5校が選ばれております。

5番、コーディネーショントレーニング地域拠点校につきましては、こちらも東京都の指定になりますが、木根川小学校が選ばれております。

6番、プログラミング教育推進校、2校でございますが、こちらも東京都の指定ということで、新宿小学校、西小菅小学校がそれぞれ選ばれております。

報告は以上でございます。

○**教育長** ただいまの報告について、何かご質問等ございますでしょうか。

塚本委員。

○**塚本委員** 研究指定グループ、今、裏面のほうでグループ研究、2グループとご案内いただきました。そのうちの(1)のほうは不登校生徒発生の予防と教室復帰云々ということで、中川中の教員の6名の方とあるのですが、(2)のほうの主体的な学び、いわゆる福井県視察グループでございますけれども、具体的には小学校教員5名、中学校教員3名というのはある程度の目安がついてのご提案ということなののでしょうか。ちょっと伺いたいです。

○**教育長** 指導室長。

○**指導室長** こちらにつきましては、例年実施をしているのですけれども、福井県視察グループは、昨年度視察に行ったメンバーでございます。もう気心も知れた仲で、その成果についてもう少し腰を据えて研究したいということで、昨年度視察を行い、それぞれ研究してきたものについて、学校は違いますけれども、今年度、深めていくという趣旨で応募を受けております。

○**塚本委員** ありがとうございます。期待させていただきます。

○**教育長** そのほかいかがですか。

大里委員。

○大里委員 今年度、新規で9校ということですが、その中で、松上小学校と新小岩中学校、小中で9年間の外国語活動・外国語科という研究にも非常に注目したいと思います。

○教育長 意見ということですね。そのほかいかがですか。

では、私から。研究校、ずっとふえてきているのだけれども、小中とも最近5カ年、やっていない学校というのは何校ぐらいになるのだろうか。

指導室長。

○指導室長 カウントをしてみたところ、現在実施していますのは60校、3園でございます。5年間というスパンで考えますと、小学校においては5校、中学校については9校が過去5年、実施していないというところがございます。ただし、その中にも来年度やりたいというような声も聞いているところもありますので、過去5年、やっていない学校につきましては、学校訪問等の機会を活用して、ぜひ受けてはどうかということで助言をしまいたいと考えております。

以上でございます。

○教育長 ありがとうございます。そのほかいかがですか。よろしいですか。

これは過去にないことでございますので、当たり前だと思わないようにしていただきたい。

では次に移ります。報告事項等3「第12期葛飾区社会教育委員について」お願いします。

生涯学習課長。

○生涯学習課長 それでは私のほうから「第12期葛飾区社会教育委員について」ご報告申し上げます。

葛飾区社会教育委員の設置に関する条例に基づきまして、社会教育委員を設置するものがございます。1番の任期でございますけれども、本年4月から令和3年3月までの2年間としてございます。2番、委員の名簿でございますけれども、大島英樹立正大学教授から始まりまして8名の方に委嘱する予定となっております。

3番でございますけれども、今回、社会教育委員の協議するテーマといたしましては、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に生まれる文化の継承についてというテーマで協議してまいりたいと考えているところでございます。

報告については以上でございます。

○教育長 ただいまの報告について、何かご質問等ございますでしょうか。いかがですか。

塚本委員。

○塚本委員 今、生涯学習課長からご説明いただいたのですが、特に協議のテーマ、まだ「(案)」とございますけれども、昨年たしか社会教育委員の方々に膨大なレポート、提言をいただいておりますので、そこまでいくともうちょっと、さらにその中からチョイスした、掘り下げたようなものがあったらいいのかなという、あくまでも感想ですけれども。協議テーマに、この1点

だけで、オリパラは一応 2020 で終わってしまいますので、協議したレポートに出てくるときに、特に「契機に生まれる文化の継承」と、どこか狙い目があるのだとは思うのですけれども、ちょっとフォーカスしづらいかなと思って、感想だけ述べさせていただきます。

○教育長 私もよく分からない。何が何だか分からない。

生涯学習課長。

○生涯学習課長 また前回と同様に、報告書、提言書をいただく予定となっております。文化につきましては、私ども広く捉えていまして、スポーツ振興はもとより、国際交流それから国際の友好親善、さらに障害者理解、ボランティア精神の醸成、葛飾区の歴史や文化の発信など、これらのことを網羅したようなレポートになろうかと思っているところでございます。

以上でございます。

○教育長 そういうことで。

○塚本委員 分かりました。ありがとうございます。

○教育長 大里委員。

○大里委員 そうしますと、区民全体といいますか、それから小・中学校も含めてということになってくるのでしょうか。

○教育長 生涯学習課長。

○生涯学習課長 そのとおりでございます。委員の名簿の中にも、設置の条例にもございませぬけれども、教員も入っているものでございます。

○教育長 大里委員。

○大里委員 小・中学校ではオリンピック・パラリンピック教育もありますので、それで日本の伝統文化についても入っていますので、ぜひぜひ小・中学校も含めていただいて。また昨年度のように教育委員と社会教育委員の懇談というような場も持てるといいなと思っています。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

齋藤委員。

○齋藤委員 今、説明いただいたのですけれども、国際交流とか障害者とかいろいろ項目がありました。国際交流まで入ってくるとなると文化の継承だけではなくて、継承というとなんか何を継承になってしまうので、継承が合っているのかどうか分かりませんが、平和とか文化とか、枠を広げた表現にしたほうがいいのではないかと思います。平和的生存権というものもあるので、平和とか文化と言ったほうが、継承だけではなくて、ちょっと言葉を考えてもらったほうが。継承というとなんか引き継ぐのですけれども、新しくつくっていく、創造もあるので、そういう言い方、文化の継承だけでいいのかなと感じますので、テーマを少し考えていただけたらと思います。趣旨はこれでいいのですけれども。

○教育長 生涯学習課長。

○生涯学習課長 委員にご意見いただきました。確かに継承といいますと、これまでのものをそのまま続けていくというものもあろうかと思えます。この2020大会を契機に新たに生まれるようなものもあろうかと思えます。そういったものを含めて少し言葉については検討してまいりたいと思えます。

○教育長 そのほか。

望月委員。

○望月委員 本当に私も教育委員になってまだ数カ月なのですけれども、恥ずかしい話、社会教育委員という仕事がどういうことをしているというのも全然分からなかったのですね。それと同時に教育委員の仕事としても、私が入ってみて、こういうことをしているのだというのが分かったのと、含めて、社会教育委員の仕事、教育委員ってこういうことをしていますよというのをもうちょっと多くの方に知らせてもいいのかなと感じましたので、一応感想というか、そういう意見があったということで聞いていただければと思えます。

○教育長 生涯学習課長。

○生涯学習課長 確かに社会教育委員という制度自体がなかなか浸透していない部分、23区の全ての区が設置しているわけでもございませんので、なかなかないものと思っています。機会を捉えて社会教育委員の、例えばこの提言につきましては、ホームページや広報でPRしているとございますので、そういった機会にあわせて社会教育委員についての定義も含めてご紹介をしてみたいと考えています。

○教育長 そのほかいかがですか。よろしいでしょうか。

それでは報告事項等3について終わります。

引き続きまして報告事項等4「渡辺明杯かつしか子ども将棋大会2019の実施結果について」をお願いします。

生涯学習課長。

○生涯学習課長 それでは引き続き私のほうから「渡辺明杯かつしか子ども将棋大会2019の実施結果について」ご報告いたします。

まず実施日時でございますけれども、令和元年5月4日土曜日でございます。2番の会場は青戸地区センターで、主に2階の講堂を使ったものでございます。実施内容は小・中学生を対象にかつしか子ども名人戦、それからその棋力に応じたクラス別の対局を実施しまして、子ども名人戦及び各クラスの上位3位の方に賞状並び記念品を贈呈したものでございます。

4番の参加者でございます。当日の参加者でございますけれども、(1)の子ども名人戦には8名、A級には43名、B級には41名、C級に36名、計128人の参加があったところでございます。5番のプロの参加棋士につきましては、資料記載のとおりでございます。

以上でございます。

○教育長 ただいまの説明について、何かご質問等ございますか。

齋藤委員。

○齋藤委員 対象は小・中学生なのですけれども、いろいろな大会で子どもたちが、この大会で優勝と、名前出ていますよね。今回、名前が出ていないのですけれども、名前が出ていないのはどういう趣旨があるのかということと、もし分かれば、この学校の子は頑張っているのだなど知らしめることができるので、こういうものを行っているということが、もっと多くの人に気持ちを、やる気を起こさせるのではないかと思うのですけれども、その辺のところでは名前が出ていないのは何でかなというのが、気になりました。何か意味があるのか、なければ出してもらったほうがいいのかなどという気もするのですけれども、その辺どうなっているのか、教えてくださいたいです。

○教育長 生涯学習課長。

○生涯学習課長 特にお名前をここに出していないというのは意味はないのですけれども、公表するというのもその子どもたちのやる気にも通じるものもございますので、当然、保護者の方のご了解を得なければなりませんけれども、そういったものを得た上で、公表できるものについては公表していきたいと思えます。

○教育長 齋藤委員。

○齋藤委員 報告の中で、また後でもいいのですけれども、教えていただけるとありがたいと思えます。お願いします。

○生涯学習課長 かしこまりました。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

大里委員。

○大里委員 今の齋藤委員のお話に続けてなのですけれども、もし公表できるようでしたら例えば広報誌に、載せるとか。そうすると区民の皆さんにも大会のことを周知できますし。そうしますと、来年も実施の予定はあるのでしょうか。それから、将棋とか囲碁とか、囲碁も子どもたち、多分一段と人気があるのではないかなと思えます。そういったほかのものも予定があるのかどうかというところはどうでしょう。

○教育長 生涯学習課長。

○生涯学習課長 まず1点目、来年度の予定につきましては、今のところ予定しているところがございます。継続して実施してまいりたいと考えております。囲碁につきましては、文化協会の中に囲碁連盟というのがございまして、そちらのほうで囲碁大会を実施してございまして、そこにお子さんの参加はいただいているところでございます。この渡辺明杯につきましては、文化協会とは別に日本将棋連盟の葛飾支部という団体がございまして、これはプロの棋士の団体なのですけれども、その団体がほぼ主幹されているものでございまして、文化協会とはまた別

のものとお考えいただければご理解いただけるかなと思います。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、報告事項等4について終わります。

これで一応、議事内容は終わったのですけれども、そのほか何か、ご意見・ご質問等がございますでしょうか。特によろしいですか。

それではこれもちまして、教育委員会第5回定例会を終了といたします。ありがとうございました。

閉会時刻 10時31分